

# 教育の質向上に資するティーチング・ポートフォリオの導入に向けて

企画者・司会者：栗田佳代子（東京大学 大学総合教育研究センター）

話題提供者：金田忠裕（大阪府立大学工業高等専門学校 総合工学システム学科）

話題提供者：青山貴子（山梨学院大学 現代ビジネス学部）

話題提供者：皆本晃弥（佐賀大学理工学部）

話題提供者：吉田塁（東京大学 教養学部）

## 1. 企画の背景と目的

ティーチング・ポートフォリオ（TP）とは、教員の教育活動について自己省察によって記述された本文とその記述を裏付けるための根拠資料の集合体である。TP 作成の目的は大きく2つあり、教育業績の可視化と教育に対する自己省察にある。教育業績の可視化は、教育業績の多角的な評価資料としての活用や優れた教育活動の共有に、また、自己省察は教育活動の改善につながる事が期待される。

実際に北米や欧州各国などにおいて TP は既に広く普及しているが、日本においても、主に自己省察による教育改善を目指すツールとして TP は少しずつ広がりを見せてきた。その普及の速度は2008年の答申「学士課程教育の構築に向けて」において言及されて以来、比較的緩やかなものであったが、2018年に「2019年度私立大学総合改革支援事業」の項目として「全教員の TP 作成」が記載され、急激な普及の契機が訪れている。

ところで TP の作成そのものおよび作成や活用の環境整備には時間と労力がかかる。このコストが高いことは問題点として常に指摘されている。TP を何のために導入し活用するのかという点を明らかにしないまま、安易かつ拙速に導入を進めれば TP 導入が目的化してしまい、教員や組織の負担が増すだけに終わってしまう危険性がある。

そこで、本セッションは、TP の導入およびその先の活用を意義あるものとするために、TP に関わる情報共有や課題解決の場を提供することを目的とする。具体的には、参加者は、TP やその作成方法について基本知識を得て、さらに導入や活用に関する具体的な事例やアイデアを知る。そして、自らの所属機関への導入目的を明確にして導入時の課題の発見し、それらの解決案をディスカ

ッションを通じて得る。

## 2. セッションの構成

本セッションの進行は下記のとおりである。

### 1 趣旨説明

### 2 話題提供

#### 2-1 TP についての基礎知識

TP とは

TP の作成ワークショップの構成

#### 2-1 導入事例とアイデア

TP の学内における普及

TP と簡易版 TP の活用

TP 導入のプロセスと課題

TS<sup>1</sup>の TP としての活用

### 3 個人・グループワーク

導入の目的と計画、活用および

これらの課題の整理

### 4 全体ディスカッション

課題の共有と解決

### 5 個人ワーク

課題解決案の作成

### 6 まとめ

話題提供の「TP についての基礎知識」（栗田）では参加者は TP の定義や構成、作成の意義および作成方法について理解する。次に「導入事例とアイデア」において、既に TP を導入し活用している機関と今後の導入に向けて既に計画遂行中である機関に所属する話題提供者からの発表（金田・皆本・青山）と、TS を TP として活用するアイデアに関する発表（吉田）が行われ、参加者自身の機関への TP 導入における課題に関する知見を得る。その後、各参加者が TP の導入と活用に関して、まず、各自で考え、次にグループおよび全体で課題を共有して、具体的な課題を発見し、解決案を得る。

<sup>1</sup> TS:ティーチング・ステートメント